

枚中だより

東大阪市立枚岡中学校
No.12 平成 29 年 3 月 8 日発行

新聞記事より

校長 服部正樹

テレビで音楽番組の司会者をされているバイオリニストの五嶋龍さんの記事が新聞に載っていました。3歳からバイオリニストである母親の五嶋節さんに教えられ、7歳でコンサートデビューして29歳の現在まで世界中のオーケストラと協演してきています。17歳年上の姉、五嶋みどりさんはバイオリニストとして1980年代から世界で活躍されており、14歳の時に有名な指揮者バーンスタイン指揮の元、演奏中に弦が切れても集中力を切らすことなくバイオリンを2回も取り換えながら最後まで演奏を続けたことでも知られています。

恵まれた環境の中で持てる才能を十分に発揮して活躍されていると思っていたのですが、新聞記事の中で自分の心の動きについて語っているのが印象に残りました。

3月に演奏会があり、そこで子どものころから弾いている曲ではあるが、演奏会で弾くのはほぼ初めてというメンデルスゾーンのバイオリン協奏曲を弾くそうです。彼は、どの曲も年齢を重ねるごとに曲に対する考えや理解が深まっていくので、子どもの頃弾いていたまを進化させると、抜け落ちている部分が沢山出てくるからこの曲を弾くのに初心に帰って練習をしているそうです。

「初心忘るべからず」に通じているのではないのでしょうか。初心者の頃の未熟な技術で弾く状態から抜け出し、年相応の技術を学び、それを覚えておくことで、幅広い技術で曲を表現できるようになるのでしょうか。

自信がない人はいくら成功してもずっと自信が持てない。その状態で続けても、豊かな音楽にはならないとトップレベルで活躍してきたにもかかわらず感じていたそうです。心を強くするためにメンタルトレーニングに励み、自分の弱さを一つ一つ克服することに努め、目標は遠いと思えば遠く見えるけれども、そうでもないと思えば意外に近く見えるものであることや人間の可能性を理解することで自分を信じることができるようになり、演奏の質が上がってきているのを自覚できるようになってきていることなどを話してくれています。

一つの分野だけでなく、自分がしたいと思うことに熱心に取り組み、その経験が演奏の幅を広げ、質を上げることにつながっていると思います。自分の可能性、自分を信じようという視点を持つことの大切さを示してくれているのではないのでしょうか。

1.2年生「がん予防の授業」と3年生「命の授業」

2月16日、1,2年生は体育館で医師2人を講師に招いて「がん予防の学習」をしました。また、3年生は、3月1日、「命の授業」と題して助産師の先生2人を講師に招いて赤ちゃんとのふれあいタイムを含む講演がありました。どちらも新しい取り組みとして、取材にも来られ、生徒たちにとっては印象に残る大切な話を聞ける貴重な時間となりました。



枚中トピックス：頑張っています、枚中生

○ 吹奏楽部 <全日本中学生高校生管打楽器ソロコンテスト関西大会> 2月26日
優良賞

○ 陸上競技部 <東大阪市中学校総合体育大会> 2月25日

男女総合	第1位	76点		
男子総合	第1位	48点		
トラックの部	第1位	38点		
女子総合	第3位	28点		
フィールドの部	第2位	14点		
男子 100m	第1位	11" 61	(+2.0m/s)	
200m	第2位	25" 58	(-0.9m/s)	
400m	第2位	56" 38		
800m	第1位	2' 15" 36		
3000m	第3位	10' 14" 82		
110mH	第1位	16" 91	(+0.1m/s)	
4×200mR	第1位	1' 38" 71		
円盤投	第2位	19m59		
砲丸投	第2位	9m02		
1年 100m	第1位	12" 19	(+1.9m/s)	
女子 100m	第3位	13" 56	(+1.4m/s)	
200m	第3位	30" 52	(-0.9m/s)	
4×100mR	第2位	54" 92		
走高跳	第1位	1m40		
砲丸投	第1位	10m88		